

8-6			
主題	グループ化による情報伝達の効果と情報共有におけるケアの統一について		
副題	～1人の職員が全職員のために、全職員が1人の利用者のために～		
キーワード1 業務改善	キーワード2	研究期間	8ヶ月
法人名	社会福祉法人 青芳会		
事業所名	特別養護老人ホーム 今井苑		
発表者：河原田 理世（かわはらだ りよ）	アドバイザー：なし		
共同研究者：野村 明宏 田中 美寿紀 関塚 真美 宮坂 信子			
電 話	0428-31-3800	FAX	0428-31-3871
今回発表の事業所やサービスの紹介	青梅市にある特別養護老人ホームで昭和63年8月に開設しました。地域との繋がりを大切にし、今井地区の中の施設、今井苑として親しまれております。近隣の保育園の園児や中学校の学生ボランティアも訪れる事もあり職員と利用者が家族のような暖かい雰囲気の中で生活して頂いています。		

《1. 研究前の状況と課題》 近年、超高齢化による要介護者の増加が社会問題として注目の中、介護施設としては複雑なニーズへの対応が求められている。介護施設として適切な対応を行う為にも「ケアの統一」が必要不可欠であり、情報共有が円滑に行われなければいけない。 そこで当施設の情報の流れやツールの現状を調べたところ、無数の情報共有ツールが存在していた。 情報の伝達速度を測るテストにおいても1つの情報が全職員に行き届くのに「2週間」という結果が出た。 ケアを統一する為にも情報伝達の「速度」「共有」能力の向上をする必要性があり、情報の流れを明確化する為にも報連相の環境作りを目的に研究に取り組んだ。	《2. 研究の目的ならびに仮説》 全職員をグループ化する事により以下の効果を期待した。 • 情報の流れが一本化することにより「見える化」し、情報が適切な順序で伝わる事が出来る。 • 情報が確実かつ迅速に伝わる。 • グループ内にて職員同士が気軽に連絡や相談を行える事により業務に対する不安の軽減や個々の利用者のニーズに合わせた個々の適切なサービスが行える。 • 個々の職員の負担の軽減
---	---

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 職員対象に当施設の報連相、情報共有についてのアンケートを実施する。
- ② 現状の情報の流れを把握する。
- ③ 情報が一本化し「見える化」する為にグループを作成し職員を振り分け、各グループの1人をグループリーダー（以下GL）として任命する。
- ④ 職員全員に書面にて取り組み内容の周知徹底する。
- ⑤ MGと各GLはSNSに登録し迅速に情報伝達が行える様にする。
- ⑥ 各グループには各自情報共有ツールを考えてもらう。
- ⑦ ⑤を使用しMGと職員の双方が情報伝達を行えるようにする。
- ⑧ 情報の流れを⑦と業務連絡ノートだけに限定とし、業務連絡ノートに関してはフロア朝礼時に日勤リーダーが他日勤者の前で3日前の事柄より音読し全体への周知を図る事とする。
- ⑨ ケアの統一を図る事を目的として、各グループに担当している居室の各利用者のリスク等の情報をまとめた居室担当シートの作成、掲示。

《4. 取り組みの結果と考察》

取り組みを行ったことで職員それぞれが輪の中で繋がる事が出来、個々の負担が減り、委員会の発信や意見交換が容易に出来る結果となった。

グループを用いた情報伝達速度のテストでは3日（次回出勤まで）という結果となり、情報を発信した職員、連絡を受けた職員、双方が迅速かつ確実に情報を行き届ける事が出来る結果となった。

しかし、グループにより新人職員とベテラン職員の割合が違い、新人職員の意見が反映されていないという意見が聞かれた。

情報の環境整備によるケアの統一の確立を

目的として実施した取り組みであったがグループ化によりグループの意見が吸い上げられる形となり、業務マニュアルの改善に繋がり、業務の効率化によるレク実施時間の増加や施設の環境整備時間の確保をする事が出来た。

《5. 考察、まとめ》

今回はグループで行う内容が情報の発信やケアに対する部分のみであったが、今後はグループによる研修等を行い介護技術の向上を目指したい。そして、介護課だけでなく他のセクションとも密接に関わることが出来る情報伝達システムの構築が施設として必要不可欠であると考え、取り組みを継続、展開し行っていく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

なし

《8. 提案と発信》

介護は「チームワーク」が必要不可欠である。チームワークを求めるにあたり「1人の職員が全職員のために、全職員が1人の利用者のために」という目標を持つことにより、働きやすい環境となり各職員のモチベーションが上がり、人材の確保・育成に繋がると考える。上記と相乗してサービスの向上が生まれ、個々の利用者に対する統一した適切なケアを行う事が出来、利用者に安全で安心し笑顔で生活を送ってもらいたい。